

多彩な実習

充実したフィールドワーク



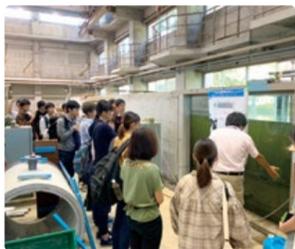
▲野生動物保全学実習



▲里山の管理（森林B）



▲植生管理学実習



▲農業の基礎（農環工B）

1年生の実習（2023年度の例）

実習	内容	コース
I	生態A 生態系のしくみ	1コース 選択
	森林A 森林のしくみ	
	農環工A 農村・農業を考える	
	共生A 住民主体のまちづくり	
	農場実習 さつまいも定植、乳牛管理、果樹管理	
II	生態B 自然観察フィールドワーク	2コース 選択
	生態C 多摩川中流域の野生哺乳類保全	
	生態D 都市公園利用者調査	
	生態E 持続的な作物生産の仕組み	
	生態F 森林における野生動物管理	
	森林B 里山管理フィールドワーク	
	森林C 都市緑地の環境緩和効果の測定	
	森林D 山村を知る	
	森林E 木質バイオマスの熱利用システム	
	農環工B 水・土を通して農業基盤について学ぼう	
	農環工C 農業・環境・食品への工学的挑戦 -土木・機械だけではない!最先端の多様なアプローチに触れる-	
	農環工D 涿水を歩き、農業・生態系について考える	
	共生E 動物園の機能	
共生F 地域博物館の役割		
共生G 行動観察入門		
共生H 感染症と社会		

取得可能な資格

- ◆ 測量士補 ◆ 中学校教諭1種免許（理科）
- ◆ 高等学校教諭（理科、農業） ◆ 樹木医補
- ◆ 博物館学芸員 ◆ 自然再生士補 ◆ 森林情報士2級
- ◆ 自然体験活動指導者 など

学科の行事



4月 拡大オリエンテーション
新入生を温かく歓迎するイベント。



7月 プログラム説明会
各プログラムの内容を詳細に2年生に説明します。



8月 学科説明会
オープンキャンパスで高校生に学科の魅力アピールします。



1月 卒業研究発表会
4年間の成果を発表します。



3月 学科卒業証書授与式
晴れて卒業する先輩をみんなでお祝いしましょう。

卒業生の声

元気に働いています！



高橋 諄
(2019年度卒)
農林水産省

現在は、農林水産省で、田畑や水路を建設する圃場整備事業に携わっています。地シスでは、多様な実地調査を通じて、自然・地域の実態を学ぶことができました。学部3年次には半年間の海外留学、研究室配属後は約40名の農村住民への聞き取り調査など、国内外において大いに学び視野を広げられたことは、その後の大学院進学から就職へと、より良い進路選択に繋がる経験となりました。



坪井 翔
(2022年度卒)
株式会社SHIFT

現在は、金融サービスのソフトウェアテストに関する業務を行っています。大学では幅広いジャンルの講義を受け、多くの事柄が多様な関係性を持っていることを学び、多角的な視点を得ることができました。さまざまな角度から物事を捉えるという視点が、現在の業務に生かされていると感じます。また、卒業研究では人間と動物の関係について考えましたが、そのときに力を入れた論理的思考は今でも役に立っています。



萩原 ななみ
(2016年度卒)
長野県総務部税務課税務電算係

現在所属している部署では、都道府県税に関する、個人情報の登録、税金の計算、通知書などの作成をする「税務電算システム」の管理をしています。大学在学中は市街地における自転車走行の危険度に関する研究に携わり、その研究を通して地域社会に関わる職に興味を持ち、現在の職場へ就職することを決めました。研究活動を自主的に進めることや、自主的な学習などの経験が、現在積極的に仕事をする事への糧となっています。



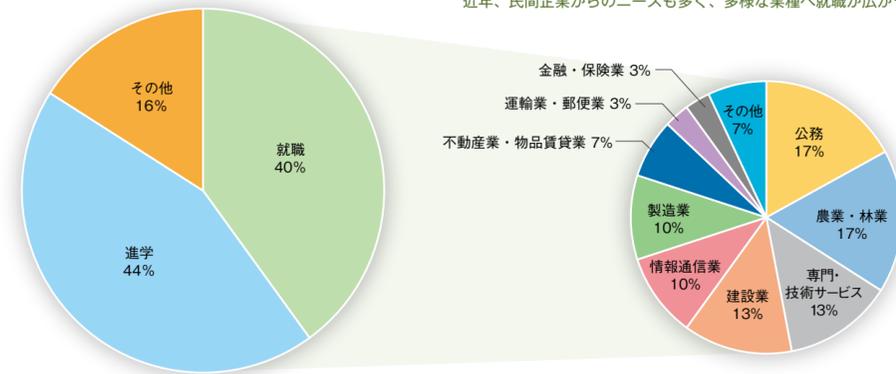
東川 侑生
(2020年度卒)
静岡県西部農林事務所天竜農林局治山課

静岡県で治山ダムや本数調整伐等の工事の設計・積算や工事監督をしています。地シスでは、実習で演習林を歩き回って測量して図面や設計書を作成したり、授業で伐倒作業にかかる時間を手計算で求めたり、学生同士で意見交換しながら森林経営計画の作成をしたり、幅広く学び体験しました。正解のない課題に対しても同期と力を合わせて取り組んだことが、仕事で大いに役立っていると感じています。学んだことを実践できる今がとても楽しいです。

卒業生の進路と就職先

社会に羽ばたく地シスのOB・OG

進学・就職状況（2022年度） 卒業生の約半数は大学院に進学します
就職先は、伝統的に国家・地方の公務員が堅調
近年、民間企業からのニーズも多く、多様な業種へ就職が広がっています



国立大学法人 東京農工大学 農学部 地域生態システム学科

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

<https://www.tuat.ac.jp/department/agriculture/region>
<http://web.tuat.ac.jp/~region/index.html> (学科独自サイト)



地域生態システム学科

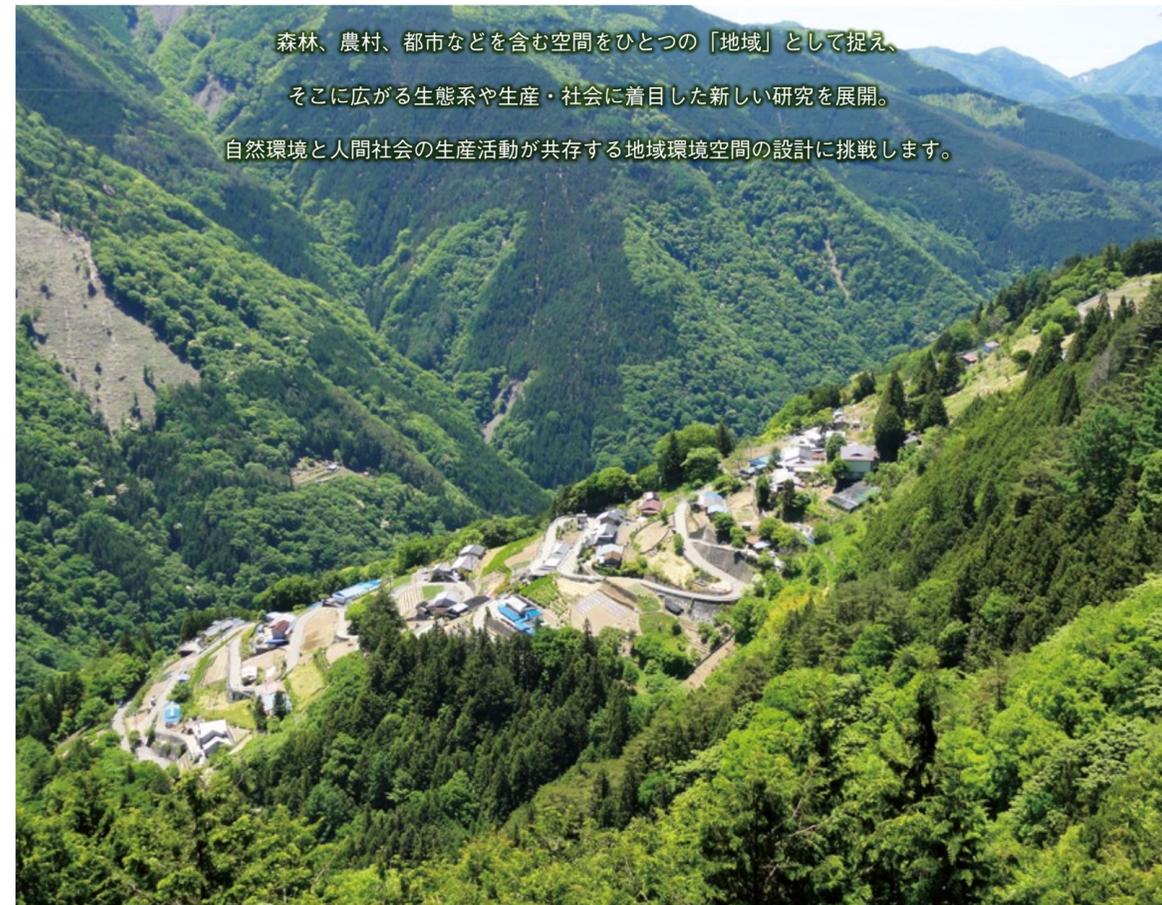
Department of Ecoregion Science

人と自然の共生

森林、農村、都市などを含む空間をひとつの「地域」として捉え、

そこに広がる生態系や生産・社会に着目した新しい研究を展開。

自然環境と人間社会の生産活動が共存する地域環境空間の設計に挑戦します。



▲長野県飯田市下栗「天空の里」

【学びのキーワード】 地域資源、生態系、持続可能性、野生動物、都市緑地
森林、農村、田園、流域、計画・管理、人と自然の共生

地域生態システム学科のカリキュラム



地域生態システム学科では、パッケージ・プログラム制というカリキュラムを採用しています。

「パッケージ」とは、関係の深い講義科目と実験・実習・演習科目をまとめたものです。このパッケージを組み合わせ一貫した専門カリキュラムにしたものが「プログラム」です。

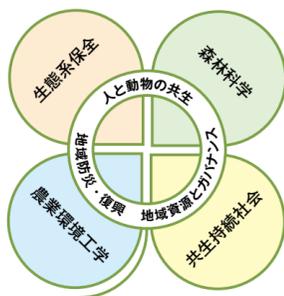
「プログラム」はその完成に必須なパッケージ群と、学習の理解を広げる推奨科目群で構成され、大学院の学問分野や教育体系につながる4つの「主プログラム」と、複数の学問分野にまたがる複合的課題を地域の視点から考える「副プログラム」があります。

指定された要件を満たすと、そのプログラムを終了したと認められ、本学科の卒業と同時にプログラム修了認定証が授与されます。

パッケージ・プログラム制



主プログラムと副プログラム



生態系を含む地域資源の保全・管理・活用などさまざまな問題を解決する社会の在り方を考え、野生動物や自然植生、森林・緑地・農地、農林業や農山村文化の新しい役割、人間と自然の調和を地域から地球的スケールで考えることを目的としています。

広い視野で、実際のフィールドに立って問題を研究し、ボトムアップ型の思考でその解決を計ることのできる人材の育成を目指します。

グローバル (global+local) 地球規模で考え、地域で行動する



生態系保全プログラム



自然生態系の保全と管理に関わる諸問題の現場解決能力(情報収集、解析、デザイン)を養うと同時に、自然環境保全、野生動物管理を実践する専門家を養成するための教育を行います。

森林科学プログラム



森林と森林環境の創造および設計ができる森林・林業の知識と技術を修得し、森林をとりまく諸問題の現場解決能力(情報収集、解析、デザイン)を養うと同時に、森林を様々な側面から理解できる豊かな人間性と国際感覚を養成するための教育を行います。

農業環境工学プログラム



都市・農村における生産環境、自然環境、生活環境の調和を図る地域環境整備、及び生産性向上と環境保全を同時に解決する持続的食料生産システム構築を担う農業環境工学の専門家を養成するための教育を行います。

共生持続社会プログラム



地域の社会・経済・文化・歴史に関する人文社会科学的な調査・分析の能力を身につけると同時に、人と自然、人と人の共生についてビジョンを描く豊かな思考力と想像力を養成するための教育を行います。

副プログラム 総合的な課題に取り組みます

人と動物の共生プログラム

野生動物の保護管理、飼育動物など人の生活圏の中にある動物との関係性の再認識を通じて、動物と人との共生社会の実現を担う人材の育成を目指します。

地域防災・復興プログラム

災害に強く、被災後に社会機能の回復が速やかに進む地域構築のために、自然科学および社会科学の素養をもち、幅広い視野と実行力をもつ人材の育成を目指します。

地域資源とガバナンスプログラム

地域の持つ歴史的・文化的・生態的特性を認識し、ガバナンスの各過程を主導的に担う人材の育成を目指します。

ピックアップ研究室

3年後期から選択した指導教員のもとで卒業研究

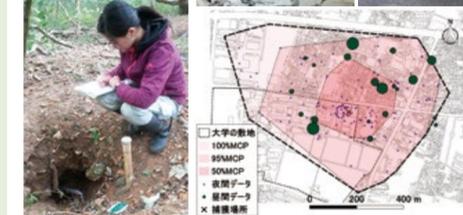
食肉目動物保護学研究室

金子弥生 准教授

野生哺乳類の中で特に食肉目動物に着目して、生態の解明に取り組んでいます。在来種の絶滅防止、生息地破壊の防止、外来種の管理、保全策を持続的に維持するための人間社会のあり方についての研究を行っています。



▲ゼミ風景



▲イギリスへ留学してアナグマの巣穴の温度環境調査

▲府中キャンパスで外来生物ハクビシンに発信機をつけて行動追跡

森林資源管理学研究室

吉田智弘 准教授、小林勇太 助教

農工大の演習林(FM草木、FM大谷山、FM唐沢山)を中心に、フィールドワークやリモートセンシング、統計解析などを用いて、森林の昆虫や植物に関する生態学研究を行っています。



▲植生調査の様子

▲造網性クモ類の生存調査



▲リター分類の様子

▲樹高測定の様子

生産環境制御学研究室

帖佐直 准教授

農業生産環境におけるセンシング・計測やデータ収集技術に関して、実用技術の開発と基礎研究の両方の視点をもって、農産物の品質管理、流通、環境、エネルギーなどの課題にも幅広く対応できるような研究を目指します



▲センサネットワーク



▲小型農業ロボット

環境文化史研究室

高橋美貴 教授

「農学部で歴史や文化を扱う研究室が?」と思われるかもしれませんが、文化遺産がたくさん生まれていることから、歴史や文化もまた地域の社会と人びと、さらに地域の農を支えるものになりえます。学生さんが選ぶ研究テーマは多様ですが、皆さん熱心にフィールドワークや資料に基づいた実証研究を進めています。



▲歴史資料調査の実習



▲震災被災地巡見



▲ゼミ合宿で報告中